

PAに対する多角的なアプローチの試み ～日中の電子オルガンを使用した実体験を通して～

五十嵐 優

発表概要

本研究では電子オルガン演奏の際の PA について、音響の専門知識が必要の無い方法からハイスペックな PA システムを使用した方法まで幅広く、多角的に実体験を元に発表する。

電子楽器であっても生演奏であるため、音像の一致をさせることが絶対的に必要である。

研究動機

大きな会場では電子オルガン本体のスピーカーだけでは音量が足りず、必然的に PA を使用する必要が生ずる。

PA は演奏している音楽がそのままお客様に伝わるような自然な音響プランニングをする必要があり、決して音楽や演奏を破壊するようなことがあってはならない。

実施例

- 1、ミキサーを使用しない簡易的なセッティングの例
- 2、合唱の例
- 3、オペラの例
- 4、他楽器とのアンサンブル
- 5、複数台でのアンサンブル
- 6、ハイブリッドオーケストラ
- 7、現代曲の例
- 8、モニタースピーカーの必要性

その他

- 1、音量と体感の関係 (Smaart を使用して)
- 2、音響機材について